



い な ば 伊奈波さん

No.2

平成16年
新年号



迎春の御社殿

伊奈波神社社報 平成十六年 新年号



新年の言寿

伊奈波神社
宮司 東 道人

新しい歳を迎えました。まず以つて新春を言寿お慶び申し上げます。前年、農作物の大切な生育期に雨が降り続き大いなる被害をもたらせました。その被害を顧れば、まさに調和した恵み豊かな太陽と水が最も大切であることを痛感させられました。衣・食・住のなかでも食が生命の根幹であります。それ故に、古来よりその年の五穀豊穡を神々に祈り豊かな生活を礎きあげて来たのであります。その神を年神（または歳徳神ともいう）と申し上げてきました。

ところで伊奈波神社も前年大改修工事に着手し、十月十五日ほぼ完了致しました。茶室水月亭も見事に竣工いたしました。九月四日裏千家第十五世千玄室大宗匠の手さばきも鮮やかに献茶祭が挙行されました。まさに、当社の境内も一新するとともに、氏子崇敬者の精神のやすらぎを求める御社として、多くの方々から参詣していただくことを祈っております。

伊奈波神社は、「七つの子」「十五夜お月さん」「シャボン玉」など、日本人の感性豊かな童謡を詩作した詩人野口雨情が昭和二年二月二十日

神詣
年の初めの神まゐり
手と手合せてお社に
今年も無事を心から
神に願ひもかけました
空もいつしかほのぼのと
あたり静に明けてゆく

と詠む。
元旦は伊奈波神社に六十万人に及ぶ人々がご参拝いただきます。まこと、岐阜のお正月は伊奈波神社から始まると申せましよう。
生きとし生けるものの私達が真新しい年の初めにそれぞれ思いや願いを神々に祈り、私どもも一層のたゆまぬ努力をおこたることなく、心を引締めてゆかねばなりません。年頭に当り、みなさまの健やかなご健康と幸せを深く祈念してご挨拶いたします。

年間行事(5月~12月)



七五三詣

七五三詣は、三才で髪置、男五才で袴着、女七才で帯解と古くよりある慣習で、幼子が立派に成人する事を祈る祭りです。今年も早くも十月半ばの土日から多くの稚児たちの姿が見られ、十一月中だけでなく、七五三詣の参拝は分散化する傾向にあります。

一人の稚児に父母と親族が連れ添って参拝されるので境内は大賑わいとなります。大きな子も小さな子も、皆元気いっぱい参道を駆け回っていました。

七五三祈禱



すす払い

すす払い神事は、この一年の社殿に付いたすすを払う神事です。十二月十四・十五日には神職以下職員が長さ四メートル程の笹竹ほうきを使い、社殿の煤を払い、すす払いを行います。

十五日には本殿で神楽祭が行われ、当社の神楽舞十五曲が奉奏され、今年の舞納めが行われました。

煤払い神事



大黒社

大黒社祭
大黒社祭は、大黒主命の広大なご神徳をいただいて商売繁盛・福徳円満・延命長寿を祈願する年に一度のお祭です。

毎年五月十五日に行われ、今年も多くの大黒社講員の方々が参列し、社殿の前で賑々しくお祭りが行われました。

大黒社講員は黒龍社講員と共に随時受け付けております。

大黒社祭



茅の輪

みそぎ神事
夏を迎える季節の変わり目に半年間の種々の罪穢れをお祓いする神事で、夏越の祓いとも云われます。

当社では、七月三十日に行われており境内には前日に神職の手で作られた直径二メートルの茅の輪が立てられました。

当日は多くの老若男女が参拝し、茅の輪を三回潜って、皆清々しく帰って行かれました。

みそぎ神事



赤丸提灯奉納

須佐之男祭
須佐之男祭は提灯祭とも云われ、笹竹に点灯した提灯を奉納し町内の安全と無病息災とを祈る夜のお祭で、毎年八月十四日に行われています。

氏子各町内の方々が、たくさん赤提灯がついた笹竹を持って集まり、境内に揚げて奉納されました。

古事記の中では、須佐之男命が八又の大蛇を退治する話がありますが、この赤い丸提灯は八又の大蛇の赤い目を表しているといわれています。

須佐之男祭

平成十六年甲申年迎える



元旦神門を望む

元旦より多くの参拝者を迎えるために境内は授与所の増設、危険箇所の補設、照明器具の設置等整備し、万全の体制で新年に望みました。

本年も新しい年を神社で迎えるようと大晦日午後十一時頃から大勢の参拝者が訪れ、神前では家族連れ晴着姿の女性が色とりどりに着飾り、身も心もすがすがしい気持ちで祈りを捧げていました。

特設の授与所には正月限定の登龍矢、熊手、干支置物、御守

などや神札、神籤を用意し大勢の人集りができていました。

また境内甘酒所(当社青年会奉仕)、門前一面の露店では大人や子供達があつちつき、はしゃぎ楽しむ姿が見られ、本年も境内と門前が一体となり県下一番の賑わいを見せていました。

今年の風
本年は、五黄土星甲申の年にあたり天候をはじめ政治・経済等や不安定な年となりそうです。恵方は東東北になります。

午前九時からの献茶祭は拝殿内に特設された舞台上で、大宗匠の鮮やかな御点前により濃茶・薄茶が点じられ御神前に奉納されました。

宮司祝詞では、昨年七月十一日より行ってきた移築工事の報告と、伊奈波神社と茶の湯の新たな歴史の始まりを喜び、神社と岐阜の茶道文化の更なる発展と、裏千家の繁栄を祈念しました。

献茶祭が終わると、斎場を境内の水月亭に移し、テイクアウトや目録の贈呈式、扁額の除幕式が行われ、つづく目録贈呈式は、大宗匠は「水月亭は大変凝った造りで、よく残っていました。玄々斎のお陰で新しい縁が出来



大宗匠のお点前

平成十五年九月四日茶室「水月亭」奉納記念の茶道裏千家献茶祭並び茶室披露が斎行された。初秋の爽やかな風が吹く中、裏千家十五代鵬雲斎千玄室大宗匠の御点前により献茶され、神社関係者・裏千家淡交会関係者ら三百名が参列した。



扁額除幕式

水月亭では毎月、裏千家淡交会岐阜支部主催の月釜が開催されます。(巻末の予定表参照)

是非至福の一夜をお試し下さい。尚、一般の方の内覧は月釜のみとなっておりますので、ご了承くださいませお願い致します。

ました。水月亭から世界へ発信していきたい」と述べ、東宮司は「伊奈波神社の新たなページが開かれた。この岐阜の水月亭が日本文化発信の拠点となつてほしい」と述べ移築工事竣工を祝った。

扁額は現家元の第十六代坐忘斎宗匠の揮毫によるもので、移築に尽力を尽された方々で行われ、その後水月亭に入り、第一席目の茶席披露となりました。

景行天皇の勅命により、当社祭神五十瓊敷入彦命は東国擾乱鎮撫に赴かれる道すがら、長良川を御舟で渡られた際に、左岸に下り立ち、御足台にされた石で、又、東国より御帰還になり、此の石台で御足を洗われて丸山の館にお入りになったことを、古くから長良川船頭の間で語り継がれてきました。

長良橋近くの川岸に存在していたのを、昭和十四年十一月、伊奈波神社の鳥帽子岩横に奉祀されたのであります。



御足台石

①御足台石について

元・伊奈波神社禰宜 木村 照

五十瓊敷入彦命が東国の擾乱鎮撫の後、金華山麓の丸山(椿原)に居を構えて以来、当地の殖産興隆に尽されました。同命は景行天皇十三年、遂に隠身されました。

その後、天文八年(一五三九)齋藤道三が金華山山頂に城を築くのに当り、御社を現地に奉遷された。

その丸山の旧鎮座地には六尺周囲一丈余の奇石が存在し、その形鳥帽子に似ていることから古くから五十瓊敷入彦命の遺徳を仰ぎ奉る拠り所として、鳥帽子岩と称え、語り継がれています。

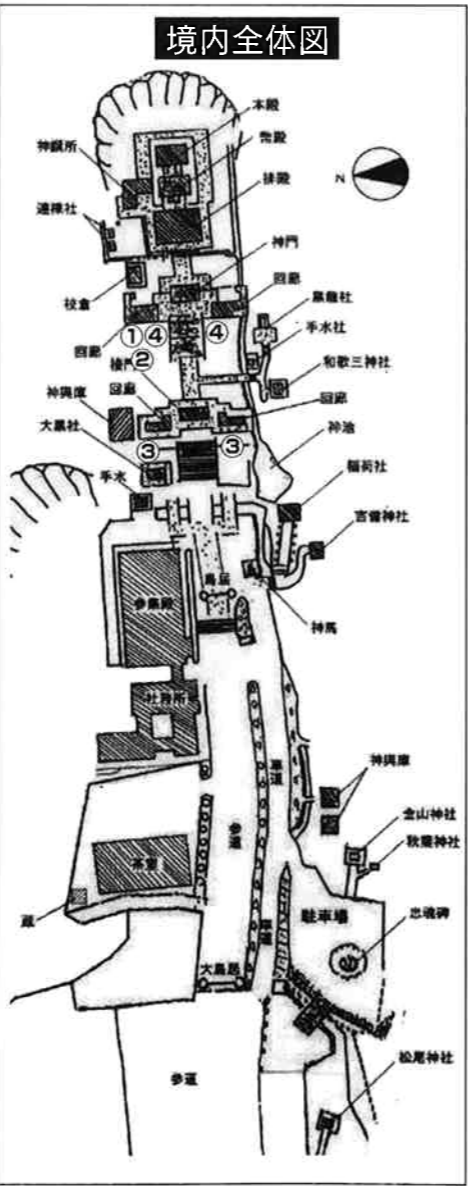
現在、伊奈波神社では過去の幾多の御造営にあたり、境内より鳥帽子岩に似たる石が出土したので、是を丸山の鳥帽子岩の影向石として安置されています。



鳥帽子岩と御足台石

今改修工事 再発見された事項

- ① 御足台石
 - ② 鳥帽子岩
 - ③ 菊紋灯籠(二対)
 - ④ 天和年間の灯籠(二対)
- 右の事項は、今改修工事の中で、再発見されたものであり、伊奈波神社の歴史を垣間見る事ができる。(位置については下図番号参照)



境内全体図

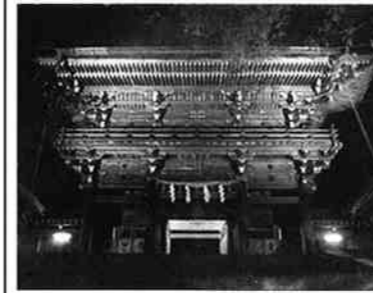
長良天神神社宮司 元・伊奈波神社禰宜 木村 照

五十瓊敷入彦命が東国の擾乱鎮撫の後、金華山麓の丸山(椿原)に居を構えて以来、当地の殖産興隆に尽されました。同命は景行天皇十三年、遂に隠身されました。

その後、天文八年(一五三九)齋藤道三が金華山山頂に城を築くのに当り、御社を現地に奉遷された。

その丸山の旧鎮座地には六尺周囲一丈余の奇石が存在し、その形鳥帽子に似ていることから古くから五十瓊敷入彦命の遺徳を仰ぎ奉る拠り所として、鳥帽子岩と称え、語り継がれています。

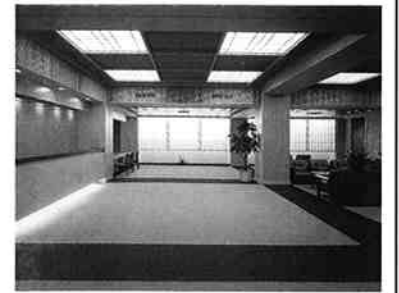
現在、伊奈波神社では過去の幾多の御造営にあたり、境内より鳥帽子岩に似たる石が出土したので、是を丸山の鳥帽子岩の影向石として安置されています。



ライトアップされた楼門



新設 祈禱殿



ロビー風景



全改修された連棟社



御社殿周辺の枝払い等



石畳・照明を新設

境内大改修工事完工

四月より行われていた境内の大改修工事は、本工事・追加工事を含め、年内にすべてが無事完工しました。

この改修工事中は、参拝者が安心してお参り出来るように安全第一を念頭に置いて行われました。

今改修によって、参集殿一階は、明るく近代的なロビーに全面改装され、五十インチテレビ・ビデオなどの近代機器等の導入と身障者用トイレ等によるバリアフリー化が行われました。

参集殿二階には祈禱殿と授乳室を新たに増設し、参拝者の為の設備を整えました。

社務所内では、内装の修復の他、神前結婚式が行われる儀式殿に空調設備の設置と耐震補強が行われました。

参集殿から本殿までの参道周辺は、大規模に神木の手入れを行い、長年伸びきった枝や雑木を伐採し、太陽の光を取り入れ、また参道の幅を一部広げるなどして、明るく広々とした境内になりました。

また、参道の照明設備を増設し、夜

間参拝用の十分な照度の確保と、イベント行事用のライトアップ照明(拝殿・楼門)を導入しました。

この他、倒壊の恐れのある灯籠約三十基の修復補強工事を行った事、防犯設備を新設し、境内での緊急事態を監視出来るようにした事、境内美観維持の為の境内配線の埋設化など、参拝者の為の設備を整えました。

また、境内の防火設備を今回見直し、消火設備や警報機器を新設・増設し、有事に備えました。

今回の改装工事で一番多い改修箇所は、長年の風雨で傷んだ建物の修復であり、その箇所は倉庫や雨樋に鎖樋を取り付ける等の増設を行った箇所を含めますと優に百を越えます。

今改修では社殿の修復のみならず、社殿維持に害になる要素を取り除き、長持ちするような環境を保つ事を優先しました。

当社に來られた方々が、すがすがしい気持ちで参拝できる様、これからも個々の改修は継続的に行ってまいります。新しくなった境内へ是非ご参拝下さい。



雅楽子ども教室

伝統文化 「雅楽子ども教室」 開催

去る九月六日より(財)伝統文化活性化国民協会・市教育委員会の支援を受け「雅楽子ども教室」が開催されることになりました。市内の子どもたちにわが国の歴史・伝統・文化に対する関心や理解を深めてもらう事を主旨とし、市内外の小中高校の生徒十八名が参加。

当社の施設・楽器を提供し、森田彌宜(同教室の顧問、神社庁雅楽講師)以下、宗宮・五島・清水権彌宜ら神職の協力指導により、毎週土曜日午後二時間の講習を行っています。

この教室は来年三月まで三十回程度行う予定で、最終回には受講生全員で「越天楽」を演奏することを目標としています。

十月十八日午後六時、楼門内石畳にて当社職員・雅楽会会員らによる、「雅楽の夕べ」コンサートを開催しました。

当社では昨年四月、約六十五年ぶりの境内大改修工事にかかり十月十五日無事終了しました。今回はその竣工奉祝行事として野外での雅楽コンサートを企画したものです。

管弦曲(平調陪臚・盤渉調越天楽)、神楽曲(剣鉾の舞・浦安の舞・人長の舞)の計五曲を演奏。境内に集まった約三百人の来観者は参道石段に座り、新たにライトアップされた御社殿を背に古式ゆかしい笙・箏の音色と神楽以外で初めて舞われる優雅な舞を観賞しました。



雅楽の夕べ (人長の舞)

五十瓊敷入彦命墓(宇度御陵)

大阪府泉南郡岬町淡輪に所在する。明治十四年二月、宮内省によつて治定。「延喜式」諸陵寮には、「宇度墓。五十瓊敷入彦命。在和泉国日根郡。兆域東西三町。南北三町。守戸二烟」と記される。

前方部を南西に向けた前方後円墳で三段に築かれ馬蹄形の周濠がめぐり、全長二三五m、墳丘の長さ一七五m、後円部直径九三m、前方部の幅一〇八m、高さ約一三m。



(御陵平面図)

御陵参拝

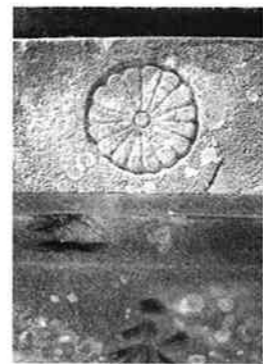
去る六月二十一日、当社職員総代にて毎年恒例行事である御陵(当社祭神五十瓊敷入彦命墓)参拝を行いました。

当日は、さわやかな向暑の日差しの中、御陵遥拝所にて宮司以下神職により例祭斎行の報告と益々のご神威の発揚を祈願しました。

この参拝行事は例年五月に神職を主とし、少人数で参拝していましたが、今年初めて役員、総代の親族の関係者を交えての親睦研修旅行として三十七名が参拝致しました。今回初めて参拝された方は皆、広大な御陵、立派に築かれた堀池に感激し、感慨深げに見入っていました。



御陵遥拝所にて



菊紋

この十六枚の菊の御紋は皇室と記されている。

当社楼門の左右に、菊の御紋が刻み込まれた灯籠が存在するが、楼門向かって左側のものが古く、竿石(灯籠柱部分)には

永大常夜燈
講中 岐阜中竹屋町
尾州名護屋 亀頭源右衛門
元文二丁巳十一月吉日

この灯籠は元文二年(一七三七)の江戸中期に当社の氏子区域の中竹屋町から奉納されたものである事が分かる。



菊紋灯籠

③ 菊紋灯籠

当社には天和四年(一六八四)正月吉の灯籠が拜殿の階段下に一对建立されており、その表面には

奉寄進 堀田定徳
因幡宮御寶前
天和四年正月吉日

と記されている。

「因幡御寶前」と刻み込まれていること、堀田定徳の奉寄進によること、天和四年(一六八四)に建立されたことなど、三百年前の灯籠として、注目される。



天和四年の灯籠

④ 天和年間の灯籠

の紋章であり、当社の御祭神が皇族である事から、菊の御紋の由縁を辿ることができよう。

現在の伊奈波神社の神紋は「菊に五三桐」であるが、この灯籠から、古くから菊の御紋を使っていたという事を知ることが出来る。

ことに、「伊奈波神社」を「因幡宮」と当てているが、これは当社幣殿の中の木額が「正一位因幡神社(文永四年丁卯姑造二日)」と同一の社名であることから、伊奈波神社のものとの社名であることが分かる。

以上から現在の「伊奈波」に改められたのは、天和四年以降のことであることが理解できる。

とりわけ「木曾名所図絵」の中で伊奈波神社は「因幡国から勧請」したことを記述されているので、鳥取県からこの岐阜に勧請したものと思われる。

また、この当社の鎮座地を井ノ口洞と称しているが、この洞を守護するのは、「黒龍社」であり、のち、天文八年(一五三九)齋藤道三が丸山の地から当地に移し祀ったと言われている。



因幡宮御寶前

新しい夏の風物詩 「地べた行燈」

毎年行われている七月三十日のみそぎ神事に合わせて、夏の絵が描かれた「地べた行燈」が参道に八十一燈設置された。ローソクの淡い光が幻想的な世界を醸し出しています。

この行燈は、氏子区域の本郷幼稚園児の作品で、和紙に子供たちの想いをよせた絵を行燈に貼付けたものです。

午後七時の神事斎行に合わせ、ローソクに火が灯され、ゆらめく炎の中映し出される自分たちの絵を楽しそうに眺めていました。

今年のみそぎ神事は行燈設置で、参拝者が例年の二倍となり、大好評でした。

来年度以降も新しい夏の風物詩として「地べた行燈」設置を予定しています。



地べた行燈

各祭典案内(二月～六月)

- 一月 一日 歳旦祭(午前六時)
- 一月 十五日 新年祈禱(午前九時～午後四時)
- 二月 三日 元始祭(午前七時)
- 二月 十五日 月次祭(午前七時)
- 二月 十五日 筒粥神事(午前九時)
- 二月 十七日 左儀長神事(午前九時)
- 二月 一日 月次祭(午前七時)
- 二月 三日 厄除祈禱(午前八時三十分)
- 二月 三日 手筒煙火(午後五時三十分)
- 二月 三日 奉納祭
- 三月 十一日 紀元祭(午前七時)
- 三月 十五日 月次祭(午前七時)
- 三月 十九日 花の撓祭(午前十時)
(旧一月時日)
- 三月 十五日 月次祭(午前七時)
- 三月 十五日 月次祭(午前七時)
- 四月 一日 月次祭(午前六時三十分)
- 四月 三日 神幸祭(午後十二時十五分)
- 四月 五日 例大祭(午前六時)
- 五月 十五日 月次祭(午前六時三十分)
- 五月 十五日 月次祭(午前六時)
- 五月 十五日 大黒社例祭(午前十一時)
- 六月 九日 月次祭(午前六時)
- 六月 九日 和歌三神社祭(午後一時)
- 六月 十五日 月次祭(午前六時)

婚礼予約受付中!!

- ◆結婚式パック ￥301,000
(挙式、衣装、美容着付、写真含む※税込み)
- ◆おすすめパックプラン(挙式、披露宴) 30名 ￥830,000
(1名追加 ¥13,000 ※税サ込み)
- ロケーションフォトプラン

料 金	内 容
19万8,000円	<ul style="list-style-type: none"> ◆白無垢または色打掛1点 ◆紋服1点 ◆美容着付 ◆写真約30カット ◆アルバム編集

上記内容で衣装・美容着付を含まない場合は、14万8,000円。
白無垢姿を美しく残しておきたい人にオススメのプラン

各種お問合せ下さい。

伊奈波神社
参集殿



古の神に見守られて
二人の想いがひとつになる。

千九百年の長きにわたり、岐阜の総産土神として、一万組にも及ぶ婚儀を見守られてきた伊奈波大神。神殿内では雅楽が響き、巫女が舞う……そして、心からの祝福を贈る両家の家族。今、古の神に見守られて、二人の想いがひとつになつていく。

水月亭 月釜予定表

- ・一月十二日・二月十五日
 - ・三月十四日・四月十一日
 - ・五月 九日・六月十三日
- 午前十時より午後三時まで
一人七〇〇円の呈茶料にて奉仕致しております。
是非ご参集下さい。

町内・家庭・会社出張祈禱

- 秋葉祭・月次祭・宅神祭・初午祭
- 地鎮祭・上棟祭・竣工祭・清祓
- 方除祭・祖霊祭 等

※お申込みは、受付又はお電話にてお申し出下さい。

編集後記

皆様方には目度く佳年を迎えられたことと存じます。
昨年当社は茶室「水月亭」の竣工、「境内大改修工事」の完工と大変革の年でありました。すっきりとした境内、落ちつきのある参集殿ロビー、杜の中に静かに佇む水月亭があり、優雅で清らかな雰囲気の間となりました。
今年は、神社の新たな出発の年として職員一同更なるご神威の発揚に努めてまいりたいと存じますので、今後とも皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。(森田)

発行所 伊奈波神社社務所

〒五〇〇一八〇四三
岐阜市伊奈波通り一丁目一番地
電話(〇五八)二六一五(一五二番代)
(年二回、六月・一月発行)